

津波対策 – 津波の解析方法の再現性と解析結果の妥当性 –



ワーキングの詳細
はこちらから

論点No.27、28、30

津波対策の基となる津波の挙動の計算に用いる解析モデルは、東日本大震災時に襲来した実際の津波の挙動を詳細に再現できるのか。

第19回ワーキング
(2021.9.24) で議論

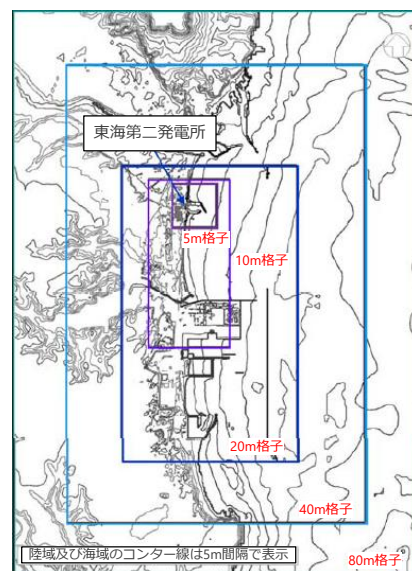
ワーキングチーム検証結果

使用した解析モデルは、発電所周辺では5mごとに詳細に解析できるものであること、東日本大震災の津波について解析した結果は、実際の痕跡を概ね上回っており、過小ではなく良好に再現できていることを確認。

ワーキングチーム検証結果（抜粋）

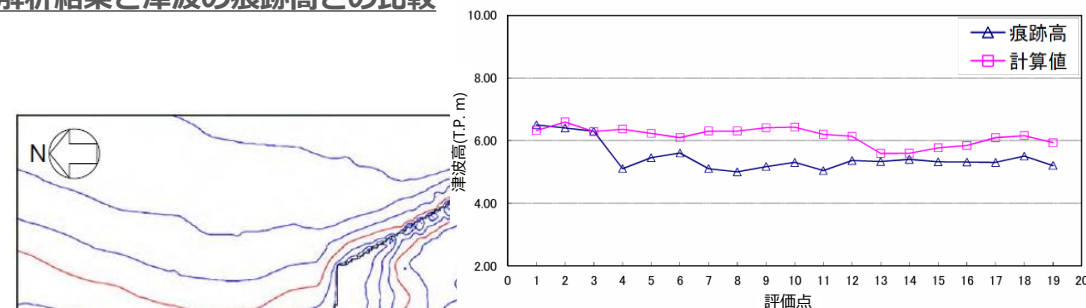
○津波の遡上解析の妥当性確認

- 施設の安全設計に用いる津波の遡上解析モデルは、最新の海底地形データ等を反映したものを使用している。
- このモデルが妥当かを確認するため、解析モデルで計算した東日本大震災の津波の解析結果と実際の痕跡を比較した。
- 東海第二発電所における東日本大震災の津波の痕跡との比較のため、発電所周辺で最小5mの格子サイズで計算し、実際に襲来した津波を再現できるかどうかを検討した。

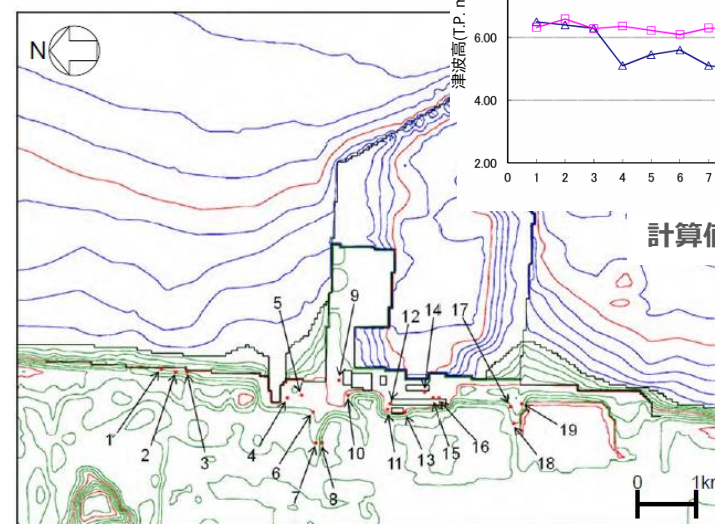


計算領域と格子分割（発電所周辺）

○解析結果と津波の痕跡高との比較



計算値と痕跡高の比較



敷地内評価点

- 計算値は概ね痕跡高と同程度か上回っており、東日本大震災の津波を良好に再現できている。